

2016年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 6	学生支援
点検・評価項目(2)	6-2 学生への修学支援は適切に行われているか。
評価の視点	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

6-2	<p><留年者および休・退学者の状況と対処法></p> <p>留年者と休・退学者については、状況を学科ごとに把握し、きめ細かな対応を行っている (B6-39 d2-表 36、37、38)。留年や休・退学につながる成績不振者には、基礎演習等のクラス単位で個別の学修指導を行っている。また、長期欠席者には、学科主任等による個別面談を実施している。学生支援センター経由で退学の意思が示された場合は、学科主任と相談し、条件によっては教員による面談を行い、意思確認を行ったうえで、「退学願」(申請書)を交付している。結果は教授会で報告し、常に学部教務委員会や学科内で対策を検討している。</p> <p><補習・補充教育に関する支援体制とその実施></p> <p>学部としての取り組みは実施していないが、オフィスアワーの実質を持つものとして、日本文学科では、研究室を学生に開放している教員が多く、教員との面談が自由なかたちで行われている。また書道学科では、自主ゼミ(毎週1回)や読書会(月1回)を積極的に開催し、「書学」「書作」のゼミを超えた自由な雰囲気、補習・補充教育が行われている。</p>
-----	---

【効果が上がっている事項】

6-2	
-----	--

【改善すべき事項】

6-2	成績不振学生への個別指導体制を確立する。
-----	----------------------

本項目の根拠資料(データ類、裏付けとなる資料)

<p>A6-1 大東文化大学・大学院シラバス (CD-R)</p> <p>大東文化大学ホームページ (Web シラバス)</p> <p>http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html <既出>A4-2-16</p> <p>B6-39 大学データ集 <既出>B1-22</p>
【追加資料】

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S:完全に達成」「A:概ね達成」「B:やや不十分」「C:不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014~ 2018)	6-2「成績不振学生」の個別指導体制を確立し、留年者、休・退学者数を減少させる。	留年者、休・退学者数。			B		
14年度 目標	6-2「成績不振学生」の個別指導体制を確立し、留年者、休・退学者数を減少させる。	留年者、休・退学者数が前年度よりも減少すること。	B				
15年度 目標	6-2「成績不振学生」の個別指導体制を確立し、留年者、休・退学者数を減少させる	留年者、休・退学者数が前年度よりも減少すること。		B			
16年度 目標	6-2「成績不振学生」の個別指導体制を確立し、留年者、休・退学者数を減少させる。	留年者、休・退学者数が前年度よりも減少すること。			B		